

学位審査の手順と学位審査委員会について

2024年度

1. 学位審査の手順：

博士論文と申請書類の提出

1. 申請者は、必要な書類、A01, A02, A03, A04, **A09-1**, A09-2, A10を指定されたNUSSからダウンロード。指導教員と相談して、必要事項を書き込む。A01は左側のみに記入。審査委員は空欄でよい。
2. 申請者は、主論文・副論文・参考論文とともに上記書類を1.と同じNUSSにアップロード。
3. 主査は、審査委員会の委員候補をA11に記入し学位委員長指定のパスワードをかける。
4. 主査は、A01の右側を記入し、A11、主論文と副論文のiThenticate出力とともにNUSSにアップロード。

学位委員会・審査委員会での審査

5. 学位委員会は、A11を検討し、審査委員会の主査、委員、レフェリーを決定する。
6. 学位委員会は、審査委員にメール通知する。審査委員は主論文と関係書類をNUSSからダウンロード。
7. 主査は、A01の審査委員を記入してアップロード。これ以後は申請者にも審査委員はオープン。
8. 審査委員は、主論文及びその他の書類を審査し、申請を認めるか判断する。認める場合は、A01右側の「主論文の概要」（案）を吟味し、修正意見等があれば学位委員長に伝える。（学位委員会の指定した期日まで）
9. 学位委員長は、学位委員会を開催し、申請者の申請資格を確認するとともに、「主論文の概要」（案）の修正意見等を審議し、修正意見を取りまとめて主査（指導教員）に伝える。
10. 主査（指導教員）は、「主論文の概要」（案）を修正し、修正版をNUSSにアップロード。審査委員からの返信がなければ改訂の必要はない。

学位論文と申請書類の修正

11. 申請者は、主論文と申請書類の修正版を研究科委員会の前週月曜日までにNUSSにアップロード。
12. 主査は、申請者が学位論文を修正した場合は修正版のiThenticate出力をNUSSにアップロード。

理学研究科委員会で受理申請を審査

13. 学位委員長が教授会で説明。

公聴会用アブストラクトの提出

14. 申請者は、公聴会開催日の10日前までにA24をNUSSにアップロード。物理事務が物理HPに掲載、掲示等で告知する。

公聴会及び審査会（最終審査）

15. 審査委員は、論文の審査をする。論文博士の場合は学力試験も併せて行う。
16. 公聴会の司会は学位委員会が指名し、主査以外が行う。
講演（40分程度）、質疑応答（20分程度）で1時間を目安。
17. 審査会で可となった場合
申請者は、主論文の修正版やA01、A03、A04の改訂版をNUSSにアップロード。
主査は、A13の案文をNUSSにアップロード。
A13の案文は主査が事前に用意し、審査会時に文面を審査委員とともに検討することが望ましい。

学位委員会にて審査報告会

18. 主査が学位委員会で審査の結果を報告する（内容説明を10分以内、討論結果を5分の目安で）。
19. 論文の可否を審議、決定。
20. 審査の結果、可となれば、主査の提出したA13の文案を審議する。
A13は、物理学教室の学位委員会でチェックが入り、主査の案を変更する場合が多くある。

学位委員会（審査報告会）の後

21. 申請者は、A01、A03、A04、A07、学位論文の最終版をNUSSにアップロード
22. 主査は、**A09-1**, A09-2、A13、A14と学位論文最終版のiThenticate出力をNUSSにアップロード。**A09-1, A09-2**は自署した原本をPDFでアップロードしたのちに教務学生係へ提出。※主査が指導教員でない場合は、主査ではなく、指導教員が自署する。

理学研究科委員会にて審査報告

23. **主査もしくは学位委員長**が、研究科委員会で「論文審査の結果の要旨」を説明する。
24. 学位授与の可否が委員会で採決される。

2. 学位審査委員会の構成

1. 物理学教室・学位審査委員会は5人で構成。

- ・主査1名、委員（教授、准教授又は講師）、レフェリー（助教）計5名
- ・そのうち2名は他分野¹⁾から選ぶ。
- ・指導教員（教授又は准教授）が原則、主査となる。
- ・主査と委員のみ、理学研究科【学位審査】委員を兼ねる。

2. 公聴会の日程は主査が決定する。

◇ 理学研究科【学位審査】委員

- ・理学研究科教授（理学研究科委員会構成員）2名以上、及び他の研究科若しくは研究所等の教授若しくは准教授等1名以上
- ・理学研究科准教授又は講師を加える事ができる。

◇ 理学研究科【学力審査】委員（論文博士の場合のみ）

- ・理学研究科教授（理学研究科委員会構成員）3名以上
- ・理学研究科の准教授を加える事ができる。

◇ 物理学教室内での【論文審査】

- ・主査＋委員＋レフェリーは物理学教室内の実質的な審査を行うものである。

1) 他分野について

異なるブロック（素核、宇宙、物性、生物）は互いに他分野とする。また、同じブロック内でも、理論と実験は他分野とする。外部委員については、明らかに同分野である場合（例えば、外部委託先の指導教員、副論文の共著者など）を除いて、他分野の教員と見なす。

他分野の審査委員にも主論文のオリジナリティーが十分理解できるよう、プレゼンテーションを指導してください。

3. 留意事項

1. 主論文の iThenticate 類似率は 30%以内となるよう努力する。

30%を超える場合は、主査は理由書を提出する。(A21 の(3)参照)